

卓 話

平成 20 年 4 月 15 日

岐 阜 の 芸 妓 文 化

大田可奈子様

皆さん、こんにちは。岐阜芸妓組合から参りました可奈子と申します。今日はどうぞよろしくお願ひいたします。十八楼の伊藤社長様から、お話があった時、当初は辞退をさせていただきました。でも岐阜芸妓として、少しでも花柳界のことを皆さまにわかっていたいただければと思い、参りました。なかなかうまくお話しできないと思いますが、どうぞよろしくお願ひいたします。

まず、岐阜の組合についてお話させていただきます。戦前、岐阜市内には2か所の花街があったそうです。柳ヶ瀬に近い会議所の裏辺りの高岩町。もう一つは長良川近くの米屋町、末広町（今のひら井さん辺り）です。大小の料亭が約 200 軒、芸妓の数も 500 数十人を超えたそうです。その時の花街を賑わしてきたのは、地元繊維、木材関係の旦那衆でした。現在では、組合は一つ、芸妓衆も 34 名に減ってしまいました。残念ですが……。でもそこで先細りの花柳界に、平成3年、商工会議所さんのメンバーを中心に岐阜芸妓振興会を発足していただきました。これによって、毎月来ていただいている師匠へのお月謝を出していただけるようになり、私たちは、お稽古に力を入れることができ、とてもありがたいことです。字の通り、芸妓ですので、芸がしっかりできなくてははいけません。今、組合では、踊り（藤門、西川）、長唄、小唄、清元、民謡、鳴物……。とたくさんのお稽古をしています。一ヶ月のうち、ほとんどがお稽古です。

お座敷をご覧になった方もいらっしゃると思いますが、お座敷では、小唄付など短い踊りを四季に合わせ、三味線とともにやっております。これをお座付といい、宴席の芸妓衆がお座敷の途中で披露する季節の踊りや小唄のことをいいます。パーティや結婚式、お座敷だけではなく、大きな舞台上で踊らせていただくこともあります。宣伝させていただいて申し訳ございませんが、毎年一年に一度、芸妓衆のディナーショーをさせていただいています。今年は11月22日、グランドホテルです。また、お時間がある方は、是非見にいらしてください。岐阜の芸妓衆、全員出ております。

次にお座敷の中身ですが、先ず私たちは一般にお客様からと旅館さん、料亭さんにご予約をいただき、お約束の場所に参ります。そこで、お客様のお接待、お座付、時にはお座敷遊びもします。お座敷遊びはたくさんございますが、皆さまがご存知なのは、「野球拳」など、「とらけん」、「こんぴら」など楽しいお遊びが沢山ございます。遊んだことのない方、ぜひお声を掛けてください。そこでいつもお客様に言われるのが、芸妓は料金が高いんじゃないかと。正直申しまして、少しは高いと思いますが、コンパニオンさん、ホステスさんたちほど、若い人は揃っておりません。どちらかという伝統のあるお姐さんが多いと思います。下は30歳から上は限りがございます。芸妓には、定年がございますので……。でもご満足いただけるよう、私達も努めております。2時間内一席です。まず一席からお呼び下さい。一席であれば、コンパニオン、ホステスさんとさほど料金は変わらないと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

後は花柳界用語のお話をさせていただきます。①<sup>たちかた</sup>立方：踊り担当の芸妓のこと 地方<sup>じかた</sup>：三味線、唄など演奏担当の芸妓のこと ②置屋：芸妓を育てて抱えている所。芸能界でいえば芸能プロダクション ③お茶をひく：お座敷がかからず、その日お商売を休む事。この語源は吉原の時代に遊女にお茶をひかせて商売を休ませたことからきた言葉のようです。私も、お茶をひかないようがんばっております。④花代・玉代：芸妓を呼ぶのに掛る料金のこと。または、線香代ということもあります。江戸時代など時計などがなかったため、線香の燃える時間を目安にしていたためだそうです。昔の線香は、もっと太かったそうです。

